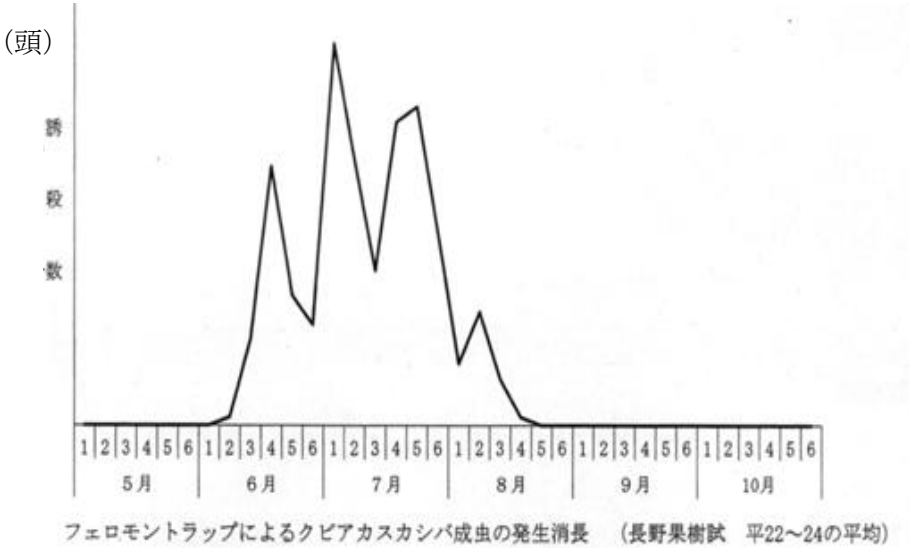


クビアカスカシバのフェロモントラップ誘殺消長 [令和8年(2026年)調査]

病害虫防除部

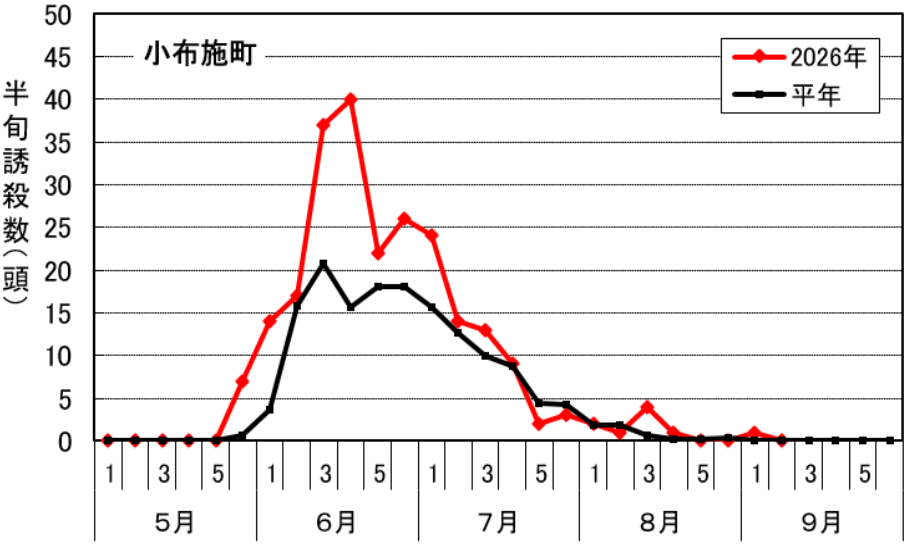
2010年から2012年までの消長模式図（果樹試験場内）



【発生生態と防除のポイント】

- ・年1回発生する。
- ・終齢幼虫が10月頃被害樹から土中に移動し、地表から数cmのところで土繭をつくり越冬する。
- ・成虫は6月中旬頃から羽化し始め、8月中旬頃まで産卵する。
- ・体長は約3cm、翅は透明で外観はスズメバチに似ている。
- ・食入部の早期発見や枝幹部への薬剤のかかりを良くするために、休眠期に粗皮削りを行う。
- ・落花10日後（果粒の小豆大期）までと7月下旬から8月上旬（袋掛け後）の2回、登録のある殺虫剤を枝幹部に十分かかるように散布する。
- ・幼虫の被害部を見つけたら捕殺する。

○小布施町（病害虫防除部）



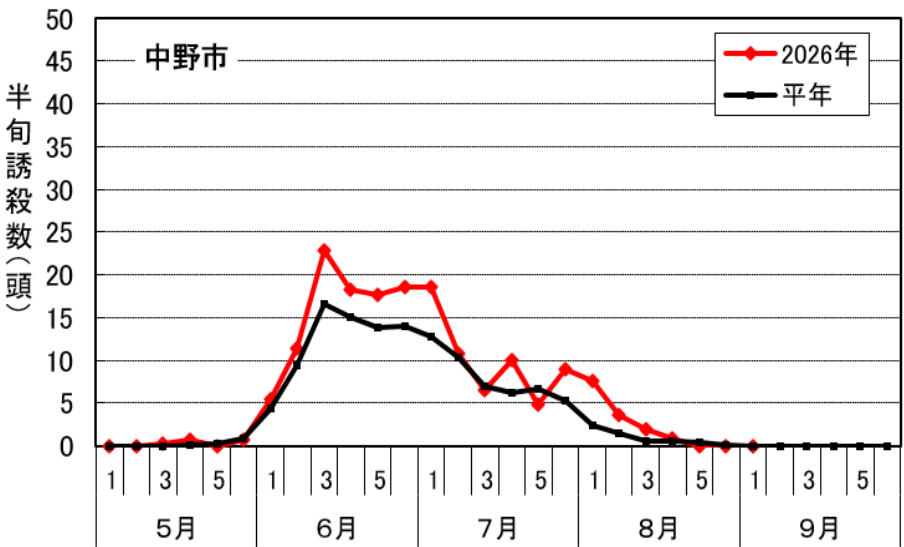
【調査地点】（標高約340m）

- ・小布施町（ぶどうほ場）
- ・平年は2016年～2025年の平均値

【コメント】

- ・平年同様、6月上旬の誘殺ピーク以降はおおむね減少を続けた。一時的にまとめて誘殺された8月の第3半旬は、ほぼ誘殺がない。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約360m）

- ・中野市（ぶどうほ場）
- ・平年は2016年～2025年の平均値

【コメント】

- ・平年より若干多かった6月第3半旬のピークのあとも、平年より多い状態がしばらく横ばいで続いている。その後も誘殺数は平年より若干多い状態となっているが、おおそ右肩下がりで減少していっているのは、平年と同様の傾向である。